

武雄市立武雄中学校学校便り

叶武



NO. 25 令和3年2月24日

〒843-0024

武雄市武雄町大字富岡11606番地

TEL 0954-22-4105

文責 校長 熊野辰未

学校教育目標 「高い志と誇りを持ち、心豊かで輝く生徒の育成」

2024年から一万円札の肖像画となる^{しづさわえいいち}渋沢栄一のことを知っていますか。「誰？」と思った人は多いのではないのでしょうか。彼は、「日本資本主義の父」とも称されます。彼を主人公に幕末から明治までを描くNHK大河ドラマ「^{せいてん}青天を衝け」も今月14日（日）からスタートしました。

渋沢栄一記念財団のホームページを検索すると以下のような記述がなされています。

渋沢栄一は、天保11年2月13日（西暦：1840年3月16日）、現在の埼玉県深谷市血洗島の農家に生まれました。家業の^{あいたま}畑作、^{ようさん}藍玉の製造・販売、^{てほど}養蚕を手伝う一方、幼い頃から父に学問の手解きを受け、従兄弟の尾高惇忠から本格的に「論語」などを学びます。

「^{そんのうじょうい}尊王攘夷」思想の影響を受けた栄一や従兄たちは、高崎城乗っ取りの計画を立てましたが中止し、京都へ向かいます。郷里を離れた栄一は一橋慶喜に仕えることになり、一橋家の家政の改善などに実力を発揮し、次第に認められていきます。栄一は27歳の時、15代将軍となった徳川慶喜の実弟・後の水戸藩主、徳川昭武に随行しパリの万国博覧会を見学するほか欧州諸国の実情を見聞し、先進諸国の社会の内情に広く通ずることができました。

明治維新となり欧州から帰国した栄一は、「商法会所」を静岡に設立、その後明治政府に招かれ大蔵省の一員として新しい国づくりに深く関わります。

1873（明治6）年に大蔵省を辞した後、栄一は一民間経済人として活動しました。そのスタートは「第一国立銀行」の総監役（後に頭取）でした。

栄一は第一国立銀行を拠点に、株式会社組織による企業の創設・育成に力を入れ、また、「道徳経済合一説」を説き続け、生涯に約500もの企業に関わったといわれています。

栄一は、約600の教育機関・社会公共事業の支援並びに民間外交に尽力し、多くの人々に惜しまれながら1931（昭和6）年11月11日、91歳の生涯を閉じました。

渋沢栄一の名言の中の一つに次のような言葉があります。参考にしたいものです。夢を大事に。

夢なき者は理想なし

理想なき者は信念なし

信念なき者は計画なし

計画なき者は実行なし

実行なき者は成果なし

成果なき者は幸福なし

ゆえに幸福を求むる者は夢なかるべからず